

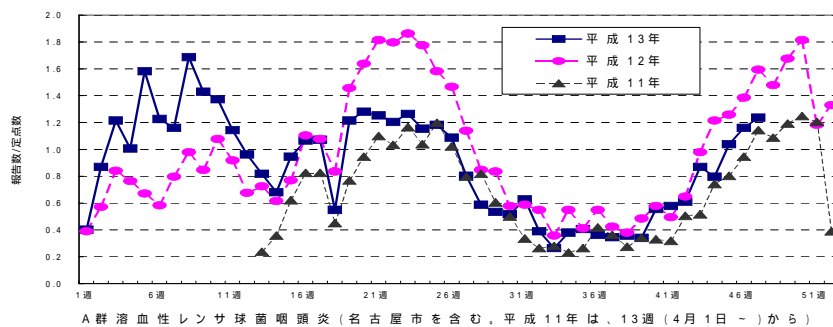
愛知県感染症情報

平成 13 年第 47 週（11 月第 3 週）

（コメント）

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は流行中で依然報告数が増加していますので注意してください。

なお A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び水痘については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。



（定点の先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌感染者（01 1歳男、0153 2歳女、025 10歳女）
胃腸型のインフルエンザが増加しつつある様です。

（尾西市 城後小児科）

- ・ 嘔吐を伴う感冒が増加しています。

（一宮市 平谷小児科）

● 尾張東部地区

- ・ ウイルス性胃腸炎（ロタ陰性）相変わらず多く、マイコプラズマ肺炎も（2歳女、6歳女、8歳女、8歳男）多く見られます。

（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ 溶連菌感染症が増えてきました。まだ、手足口病が見られます。
今週は突発疹が少し目立ちました。

（尾張旭市 佐伯小児科医院）

- ・ 3歳、5歳の兄弟とその母親の溶連菌家族内感染（迅速診断陽性）がありました。

（春日井市 朝宮こどもクリニック）

- ・ 今週は胃腸かぜ及び熱のないかぜ症候群が多くみられました。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ E B ウイルス感染が目立ちます。他医(内科)よりインフルエンザ A が 1 例みられたとの報告がありました。
(小牧市 志水こどもクリニック)
- ・ 水痘患者増加。喘息症状長びく気管支炎多い。
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ 溶連菌感染と手足口病合併 4 歳女
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ 感染性胃腸炎(嘔吐が主)が増加してきました。
(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌(0126 4 歳女、0166 5 歳男、0169 10 歳女)
(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)
- ・ 下痢、嘔吐症増加。カンピロバクター感染 4 歳女
(豊田市 やふそ小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 7 歳男、带状疱疹 14 歳男
(岡崎市 深田小児科)
- ・ 病原性大腸菌(O18(+))VT(-)6 歳男、33 歳女。O1(+))VT(-)9 ヶ月男、O6(+))VT(-)5 ヶ月男)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O6 2 歳男、O1 4 歳男
(岡崎市 川島小児科水野医院)
- ・ カンピロバクター 2 歳
(幸田町 とみた小児科)
- ・ カンピロバクター 13 歳男。带状疱疹 4 歳男。伝染性紅斑時々あり。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 溶連菌感染症増加、子供から母親への感染例あり。嘔吐症も増加中。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 今週も感染性胃腸炎が目立ちました。
(西尾市 山岸クリニック)

- ・ マイコプラズマ肺炎 8歳女。感染性胃腸炎が大流行しました。
(三好町 三好町民病院)

- 東三河地区

- ・ インフルエンザ01A(+) * 11歳男。熱性ケイレン 1歳男。

* インフルエンザ01A: A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する。ただし
A・B型の区別はできない。

(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

報告はありません。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症患者1名。

第45週(11月5日~11月11日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、例年の同時期よりやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、山形県(定点当たり4.7)、鳥取県(3.3)などである。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、山口県(8.9)、熊本県(8.7)、福岡県(8.4)、鳥取県(7.8)、福井県(7.3)、石川県(7.1)などである。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較するとかなり定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(9.3)、長野県(6.8)、富山県(6.1)、沖縄県(4.4)などである。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数6.3、香川県で4.0と多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001 年 10 月 5 日号 (76 巻 40 号)

黄熱。ギニア：9 月 24 日時点で首都コナクリ地区で 18 例（うち 2 例は確定、死亡 2 例）、ンゼレコレ地区で 11 例報告。W H O、ユニセフ、カナダ政府、フランス政府、国境なき医師団、国際赤十字が調査開始。象牙海岸。9 月 29 日までに保健省から疑似例を含め 174 例報告（23 例確定、20 例死亡）。動向調査とワクチン接種が進行中。

コレラ。西アフリカ：本年 7 月 - 9 月の状況。ブルキナファソ：314 例（死亡 6 例）、ト - ゴとの国境地帯。象牙海岸：9 月 21 日時点で 3,152 例（死亡 175）。保健省、国境なき医師団などの実態調査と対策が進行中。ギニア：本年 8 月 - 9 月、象牙海岸との国境地帯のンゼレコレ地区で 155 例（死亡 12 例）発生、保健省は W H O、国際赤十字などの協力のもとに実態調査と対策立案中。

インフルエンザ：2002 年流行期用ワクチン推奨株。A 型（H1N1）はニュ - カレドニア 99 年分離株、A 型（H3N2）はモスクワ 99 年分離株、B 型は四川省 99 年分離株。いずれも 99 年において広く流行し、ワクチン試作品の抗体上昇状況は良好。

生物兵器対策：W H O は地球規模における生物兵器対策網を 00 年 4 月から開始した。対策網は 疾患の把握、報道の正確さ、緊急の知識伝達、緊急の対応、等である。

インフルエンザ。01 年 9 月：パラグアイ。A 型と B 型。

9 月 28 日 - 10 月 4 日届出：コレラ：インド、オ - ストラリア（輸入例）。ペスト：米合衆国ユタ州、モンゴル。

2001 年 10 月 12 日号 (76 巻 41 号)

炭疽病。米合衆国。フロリダ：合衆国疾病予防センタ - (C D C)。今回の炭疽菌テロの犠牲者の第 1 例の報告。10 月 5 日肺炭疽で死亡。同僚の第 2 例の鼻腔から炭疽菌が検出された。米合衆国では炭疽病は 20 世紀になって 18 例報告されているだけで最近 25 年間は発生ゼロである。現在 C D C は W H O と共同で疫学調査中。

クリミア - コンゴ出血熱 (C C H F)。パキスタン：現地報道によれば同国西部のクエッタ地区で本年 3 月 - 8 月に 41 例（死亡 12 例）発生。従来 C C H F が常在していた地区であるが W H O は同地区の保健担当者と確認調査中。

黄熱。象牙海岸の現状：10 月 8 日時点で 203 例（死亡 21 例）。同国保健省は W H O、ユニセフ、国際赤十字などの協力で副作用調査と平行して全国一斉ワクチン接種を実施、死亡に至るような重症副作用の報告はない。ワクチン普及と財政的援助が必要。

ポリオ。フィリピン：00 年 - 01 年のドミニカ共和国とハイチにおけるポリオ・生ワクチン株由来のポリオ様麻痺性疾患発生に伴い W H O はポリオ様患者のウイルス検査に関して抗原検索と分子生物学的手法による遺伝子検索を各地区で実施開始した。その結果、01 年 3 月 - 7 月にフィリピンで 3 例の生ワクチン関連麻痺例が発見された。

狂犬病。アジア：現在全世界で年間 4 万名 - 5 万名が狂犬病で死亡、その 90% がアジア諸国で発生している。ワクチン有効率はほぼ 100% であり、ワクチン普及が急務であるがワクチン供給（特に安価なワクチン供給）などの問題が多い。

インフルエンザ。01 年 10 月：カナダ（A 型）。英国（A 型と B 型）。

10 月 5 日 - 10 月 11 日届出：コレラ：ギニア、モザンビ - ク、ト - ゴ、香港。

平成 13 年 11 月 29 日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝夕の冷込みで一枚余分に着ていこうか迷う日が続くようになりました。通勤電車でもマスクが目立ちはじめています。ご多忙のところ、いつも貴重な情報を有難うございます。11月前半のまとめをお送りします。

1.名古屋市内：第二日赤岩佐先生からは肺炎・気管支炎が多く要入院例が激増、ウイルス性腸炎増加、城北病院渡辺先生からは感冒が少しづつ増えているがインフルエンザ様疾患は殆どなく、テストキット陽性者もいない、嘔吐が主体の患者が多いが下痢は目立たず、典型的な冬期流行性嘔吐症の例はなく、水痘散発中でRSウイルス陽性の喘息様気管支炎とマイコプラズマ感染症が目立つ、千種区今枝先生からはウイルス性腸炎（嘔吐が主症状、軽度の下痢）、伝染性紅斑とムンプスが散発中でマイコプラズマ肺炎がぼつぼつ、三菱病院岩間先生からは感冒性嘔吐とムンプスが目立ち胸膜炎を併発したマイコプラズマ肺炎、乳幼児のウイルス性肺炎、RSウイルスによる気管支炎あり、中京病院柴田先生からはムンプスが多く、RSウイルスやマイコプラズマによる入院がみられる、労災病院山田先生からはインフルエンザA、B（要入院例あり）、EBウイルスを併発して重症化したマイコプラズマ感染症、百日咳、溶連菌感染症、RSウイルスによる乳児細気管支炎、ウイルス性発疹症などが目立つ、大同病院水野先生からはムンプス、ウイルス性腸炎（嘔吐・腹痛が主体で下痢は少ない）、咳のひどいウイルス性（？）気管支炎、マイコプラズマが主な原因と思われる肺炎が多い、とのお手紙をいただきました。

2.尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病の流行が続き溶連菌感染症、感染性胃腸炎や水痘が散発中とのお手紙です。

3.三河地区：安城更生病院小川先生からは急激な嘔吐を伴う発熱患児が目立ち（下痢はなく、1 - 2日で治癒）、肺炎の入院がやや目立つ、知立市近藤先生からは水痘やや多く小型球形ウイルスらしい感冒性嘔吐下痢症が小学校で流行、刈谷市田和先生からは嘔吐下痢症（嘔吐だけの例も含めて）が出始めたようだ、豊橋宮澤先生からはムンプスと水痘、手足口病、感冒性胃腸炎が散発中とのお手紙をいただきました。有難うございました。